

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	152	221	百日咳	0	0
RSウイルス感染症	3	2	ヘルパンギーナ	21	14
咽頭結膜熱	14	11	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	76	65
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	50	40	急性出血性結膜炎	0	0
感染性胃腸炎	362	346	流行性角結膜炎(はやり目)	11	5
水痘	150	126	細菌性髄膜炎	0	0
手足口病	17	8	無菌性髄膜炎	0	0
伝染性紅斑(りんご病)	21	17	マイコプラズマ肺炎	0	2
突発性発しん	57	25	クラミジア肺炎	0	0

報告が多い感染症

感染性胃腸炎
インフルエンザ
水痘

- 感染性胃腸炎は、報告数 362 件(前週報告数 346 件)と増加。地区別では、山鹿、宇城、人吉に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の56件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- インフルエンザは、報告数 152 件(前週報告数 221 件)と減少。地区別では、天草、人吉、宇城に報告が多くみられる。年齢別では、10～14歳の46件を最多に、幅広い年齢層からの報告である。
- 水痘は、報告数 150 件(前週報告数 126 件)と増加。地区別では、人吉、宇城、菊池に報告が多くみられる。年齢別では、2歳の41件を最多に、8歳以下からの報告である。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	33	2	6	21	112	48	6	10	24		2	25		9				
山鹿保健所	5			2	40	4		2	2			10	*	*				
菊池保健所	12	1	4	4	32	18	1	1	8		2	9						
阿蘇保健所					4							1	*	*				
御船保健所	2				8							1	*	*				
八代保健所	4			7	29	1	3		5			2						
水俣保健所				1	1	6	2		1		4	9	*	*				
人吉保健所	30		3	1	27	34		2	5			5	*	*				
有明保健所	10			3	33	12	1	2	4		5	5		2				
宇城保健所	11		1	5	41	23		4	3		1	5						
天草保健所	45			6	35	4	4		5		7	4						
計	152	3	14	50	362	150	17	21	57	0	21	76	0	11	0	0	0	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5月	6~11月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上
インフルエンザ	152		1	1	4	4	8	5	13	13	17	12	46	5	10	5	3	2	1	1	1
小児科定点年齢	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上						
RSウイルス感染症	3		1	2																	
咽頭結膜熱	14		3	8	1	1				1											
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	50			4	4	5	7	4	8	6	5	4	2		1						
感染性胃腸炎	362	2	32	56	30	40	20	23	7	23	22	20	51	11	25						
水痘	150	6	16	32	41	22	16	10	2	4	1										
手足口病	17		1	7	5	2	1		1												
伝染性紅斑	21				1	4	2	7	2	2	2	1									
突発性発しん	57	2	27	28																	
百日咳	0																				
ヘルパンギーナ	21	1	4	6	1	4				3		2									
流行性耳下腺炎	76			1	12	14	15	11	5	10	3	1	3	1							
眼科定点年齢区分	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0																				
流行性角結膜炎	11						1							2	2	1	3	1			1
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0																				
無菌性髄膜炎	0																				
マイコプラズマ肺炎	0																				
クラミジア肺炎	0																				

大きな流行が発生
又は継続しつつある地域

● 感染性胃腸炎 : 山鹿

● 水痘 : 宇城・人吉

ヘルパンギーナ



ヘルパンギーナは乳幼児のあいだで流行する夏かぜの一種で、エンテロウイルス感染症の代表です。報告数は毎年5月頃から増加し始め、6~7月にかけてピークを迎えます。症状は、発熱に続き、のどに小さな水疱が出現します。発熱は2~4日間程度で下がる場合がほとんどですが、発熱時に熱性けいれんを伴うことがあります。また、のどの水疱の痛みのために、食事や哺乳ができなくなることがあり、脱水症状などを起こすことがあります。ほとんどの場合、予後は良好です。まれに無菌性髄膜炎の合併症を起こすことがありますので、頭痛や嘔吐などの症状がみられる場合は注意が必要です。予防のために、流行期にはうがい、手洗いをしっかり行うことが大切です。



KKT 医療ナビ! Dr. テレビたん

<http://www.dr-tvtan.jp/>

情報提供: 熊本県健康福祉部 健康危機管理課